

室員紹介 ～平成24年度第3回 寺西主査～

総合政策局 参事官室（総合交通体系）

主査 寺西 浩輝

生まれ：愛知県名古屋市

趣味：映画鑑賞



題： **～ICT が歩行困難を救う～**

不意に背筋に激痛が走った。それはほんの一瞬の出来事だった。

私はそのまま仰向けに倒れ、暗がりの天井を見つめた。口から洩れるのは、荒い吐息と痛みからくる喘ぎ声。朦朧とする意識の中で、断末魔の叫び声すら聞こえた気がした。

翌日、私は起き上がることができなかった。

「まさかそんな・・・」という思い。いつだって体調が悪いときは眠れば治る。安易にそう思っていた。それに、この齢で・・・。

脳内を駆け巡るギックリ腰という、忌むべき五文字。

掌に力を入れ半身を擡げようとした。だが昨夜痛めた腰は悲鳴をあげ、私は半身を起こすことすらままならず、そのままベッドに吸い込まれる形となった。重力がいつもの何倍にも感じる。まるで地球ではない、どこか別の惑星にいるみたいだった。

あれから早1年。

現在の私は、なんとか無事に立っていられる。動けるようになったのは、あれから2, 3日経ってからだった。物を掴まずにようやく立てるようになり、自宅から目と鼻の先にあるコンビニまで行ったときには、杖をついて歩く老人の気持ちがわかるような気がした。

あの時以来、それまで健康に無頓着だった私も少しは健康に気を使うようになった。週末はジムへ行き5km程走り、朝は毎日サラダを食べる。その甲斐あってか、私は今のところ至って健康体といっても良いだろう。

歳月が過ぎ去る毎に積もり重なる病は、まさに累進課病といっても過言ではない。今後どんな病が前途で待ち構えているかわからない。特に歩くことができないというのは本当に辛い。

丁度そんなことを考えている矢先だった。私は現在の職場で歩行者移動支援施策に携わることになった。

歩行者移動支援とは、移動制約者が各々のニーズに合わせて移動しやすいルートを選択したり、周囲の施設情報などを取得したりすることで、歩行者の移動を支援する仕組みのことである。最近では、駅構内のスロープやノンステップバスなど至る所でバリアフリーを意識した施設や設備がある。しかしながら、それらの情報を利用者が知りたいときに知ることができる情報伝達の仕組みが未だ不十分である。

私は現在の職場でそうしたソフト支援（特にICT技術を用いたソフト支援）を通して、移動制約者の歩行支援に貢献していきたい。

※ICT・・・Information and Communication Technology の略で、情報通信技術を意味する。ITにCommunicationの概念が明示されているところに特徴があり、IT以上に共同性を意識した表現である。情報の共有化という点でユビキタス社会をより意識した概念といえる。